

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.34 Spring & Summer 2016

海上の森では、5月から6月にかけて花を咲かせます。白い花びらのように見えるものは、つぼみを包んでいた葉で、これを山法師の頭巾に見たててこの名がついたようです。



ヤマボウシ

トピックス

・海上の森はいま

海上の森 調査報告書 第5号 発行！

・この人 ～愛知万博から10年を迎えて～ No.Final

愛知万博の思い出とこれからの海上の森について
マリ クリスティーナさんに聞きました！

どんど焼きが行われました

1月9日に海上の里で、どんど焼きが行われました。どんど焼きは門松や正月飾りを焼いて、その煙で年神様を送る行事です。里山サテライトや海上の森センターに飾っていた門松も一緒に清められました。また、どんど焼きとともに鏡開きも行われ、鏡餅がふるまわれました。



特集 海上の森はいま

海上の森 調査報告書第5号 発行！

今年も「海上の森調査報告第5号」を取りまとめることができました。詳しい内容は、調査報告書をご覧ください。ここでは平成27年度に取り組んだ外来生物の動向について報告します。

海上の森で平成27年度に確認された外来植物は68種（既存データを含めると141種）、外来昆虫は10種、外来魚類の確認種はなし、外来両生類は1種、外来爬虫類の確認種はなし、外来野鳥は2種、外来哺乳類は5種（うち1種は疑われる種）でした。この中で、特定外来植物に挙げられているオオキンケイギク等は確認されませんでした。

さて、こうした調査を行うと注意すべき外来生物をどう駆除し、どう抑制するのかという対策が問われることとなります。しかし、決定的な対策などはないのが実情です。では、そのまま放置するのか。実効性、費用の面から効果的な対策の実施が望まれます。

さて、その対策は、ひと言で表現すると啓発と実践です。意図的な持ち込みの防止対策として、ペットなど飼うことができなくなった動物を放すことを止めてもらうこと。放すことにより、そこに生息している在来種のエサや生息場所がなくなるなど生態系が乱されることや共通感染症の危険性が増すなどを啓発し、防止する。植物も同じです。また、非意図的な侵入では、情報の収集と対処が重要となります。すでに定着しているセイタカアワダチソウやアレチヌスビトハギなどは、適切な時期に植物に詳しい指導者とともに花をつむなどの実践で拡大を抑制するなどが一例です。

これらは、センターの取り組みだけでは不十分で、日々、海上の森に来られる皆さんの協力なくしては進みません。

外来生物の駆除と抑制にご協力をお願いします。

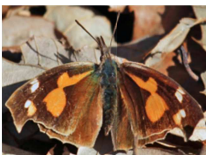
森のなかま

テングチョウ



← 表面

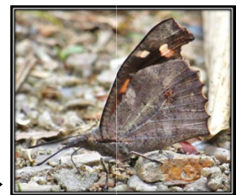
全体的に黒褐色～茶褐色で、オレンジ色の部分がある。メスは、前翅にオレンジの斑点が目立つ。



オス



メス



裏面 →

枯れ葉にそっくりな見た目をしている。頭に「天狗」の鼻のように見える長い突起がある。

2月、3月ごろになると、茶色っぽい見た目をしたチョウが元気に飛ぶ姿が見られます。よく見ると、頭の先端が「天狗（てんぐ）」のように長く、角ばった翅の形をしたチョウです。これは「テングチョウ」とよばれるチョウで、成虫で冬を越して、少し暖かくなると活動を始めます。春の近づきを知らせる生き物のひとつです。

翅を広げて日光浴をして、太陽からエネルギーをもらって元気に飛び立ちます。時には他の個体と「バババババ！」という音を立てながら縄張り争いをする事もある。

しかし、枯れ葉の上に降りてしまうと・・・さあ大変！翅の裏面は枯れ葉にそっくりなので、どこに降りたのか、さっぱりわからなくなってしまいます。翅を開く前に見つけることができるかな・・・？

この人～愛知万博から10年を迎えて～ No. Final

愛知万博の思い出とこれからの海上の森について マリ・クリスティーヌさんに聞きました！

Q1. 愛知万博から10年経ちましたが、当時の思い出を教えてください。

一番印象に残っていることは、ボランティアの方々が一生懸命に万博を支えてくださったことです。海外の方々に対して、いつもとてもフレンドリーでした。「一市町村一国フレンドシップ事業」を実施したことも大きな思い出です。万博史上初めての試みで、すべての参加国を分け隔てなくおもてなしすることを目的に実施されたのですが、愛知県の人々と世界が一気に近づいたように感じました。当時のお付き合いが今でも続いているところがあると聞いています。お互いの違いを認め合い相手を理解し、尊重するという万博の最終目的がここに集約されているように思います。

Q2. これからの海上の森やあいち海上の森センターへの想いを教えてください。

もともと海上の森が「愛・地球博」のメイン会場と決まっていたのですが、オオタカが生息していたおかげで森が残されたため、オオタカに感謝です。あの時に自然を残すことを何より優先させたということは後世に残る素晴らしい模範となったと思います。

里山は自然そのものですが、自然に任せてさえいけば自動的に存続するというものではありません。その地域の特性を活かして、人間の手が入ることでより持続可能な里山が出来上がるのです。海上の森センターはこれからも「自然の叡智」を伝え続ける大きな役目を果たしてほしいと思います。

<プロフィール> マリ・クリスティーヌ



あいち海上の森センター名誉
センター長/異文化コミュニケ
ーター/2005年日本交際博覧会
広報プロデューサー

父親の仕事に伴い4歳まで日本で暮らし、その後ドイツ、アメリカ、イラン、タイ等諸外国で生活。単身帰国後、上智大学国際学部（現：国際教養学部）比較文化学科卒業。大学在学中に芸能活動も開始。94年東京工業大学大学院理工学研究科社会工学専攻修士課程修了。今現在も都市工学を学んでいる。幅広い視点から国際会議・式典等の司会、講演活動を多数こなす。

センター職員随想リレー かたりべのひと言

<海上の森とのふれあい>

あいち海上の森センターに配属されてはや1年の月日が経過しました。

社会人になってからは自然に親しむ機会がほとんどなかった私にとって、海上の森で過ごす時間は毎日が新鮮なものであり、自然の温かみや厳しさにほどよい心地よさを感じています。

昨年8月には、このすばらしい自然を家族にも味わってもらおうと思い、「海上の森探検ツアー」に参加させていただきました。

娘は慣れない山道や蒸し暑さに悪戦苦闘でしたが、トンボやキノコなどを見つけては大はしゃぎ！！いつも以上の笑顔に心が癒されました。

海上の森は交通の便が良く、手軽に自然を楽しめる最高のスポットです。ぜひとも多くの方にお越しいただき、豊かな自然を体感していただければと思っています。(T.I)

展示の目玉 海上の森の四季暦

あいち海上の森センターでは、「海上の森の四季暦」の展示を行っています。海上の森で見られる様々な動植物や景色の写真を四季毎にまとめました。また、「今の時期に見られる動植物」のバックナンバーも四季毎に分けて展示しています。海上の森へ散策する前や散策した後にこの展示を見て、海上の森の生き物たちに少しでも興味をもってもらえたら幸いです。

ここに展示されている動植物は海上の森で見られるほんの一部に過ぎません。展示室の自然観察インフォメーションや本館2階のライブラリー、NPO法人 海上の森の会 自然環境調査グループが作成した生物季節調査の報告書などを参考にされるとより一層海上の森の動植物について知ることが出来るので、併せてご活用ください。



平成28年度開催予定 海上の森体験学習プログラム

あいち海上の森センターでは、自然を身近に感じてもらうための体験学習プログラムを実施しています。今年度のプログラムでは、以下の内容を予定しています。

里と森の教室

海上の里にある田畑や周辺の山林で、稲作や畑仕事、山仕事を体験して里山の魅力を学びます。

対象：小学生以上（小学生の場合、保護者同伴）



調査学習会

森の中を歩き、植物・昆虫・野鳥・キノコなど海上の森の自然について少し専門的に学習します。

対象：小学生以上（小学生の場合、保護者同伴）



森の楽校・森のようちえん

インタープリターと一緒に森に入り、自然と触れ合う楽しさを学びます。

対象：「森の楽校」は小学生以上（小学生の場合、保護者同伴）

「森のようちえん」は4歳以上の園児（保護者同伴）



※紹介した内容は変更されることがあります。詳細につきましてはあいち海上の森センターホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>) またはセンターおよび関連施設にて配布される体験学習プログラムをご確認ください。

編集後記

ウグイスやヤマガラ、シジュウカラなどがさえずり、木々の緑が濃くなってきました。これから益々野鳥や昆虫の活動が活発になり、森がにぎやかになるのが楽しみです。

編集・発行 あいち海上の森センター（ムーアカデミー）

発行日 平成28年6月4日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>



ホームページQRコード